

## 日本縦断走り旅 回顧録

元々記憶力が弱いので 過ぎ去った日々の記憶が薄れてしまいましたが、初日の宗谷岬は今でも鮮明に思い出す事が出来ます 迎え風の吹き付ける中 次第に雨が加わり 距離も合わせて今回の旅の困難さを思い知らされたスタートだったと思います。 目を追う事に体中が悲鳴を上げ始め、何とか成るさ? と考えた考えがいかに甘く、走れない自分の現状に、声を荒らげ、不満を叫び、参加された皆さんに不快な思いをさせた事、反省するばかりです、そんな中、やめると後悔するゾー と励ましの言葉掛けてもらうが、立ち直れず、安易な電車に乗る手段選んでしまいました、少し後ろ目たい気持ちと、前進続ける皆さんが、とても羨ましく輝いて見えました。 そんな中でも嬉しい日がありました、古川～仙台に向かう当日、皆さん一緒に、富谷町のアパート前のエードに寄ってくれ、我が妻の用意した、おもてなし、有難うの言葉を一杯貰い、嬉しい日と成りました。そして日本橋～藤沢ですか、旧街道の匂いすらない歩道を走り、次第に離され歩道橋の上で呆然とたたずむ、この先どうするの? そんな時、救世主のTさんに再会し街道の道案内をして貰い、箱根で有名な権太坂を登り無事に藤沢にたどり着きました、又箱根越えも強く印象に残っています、雨の中、カサを片手にポンチョ姿、置いて行かれたら旧道体験できず必死で付いて行くが、次第に離されるが、坂に成ると皆さん歩くので、遅いがひたすら走ると、追いつく、この繰り返りで、小川を乗り越え、転びそうに成り、階段登り茶屋で甘酒、やっと一息入れる、舗装路に出るが、いつの間にやら姿が見えない、一瞬焦ったが、トイレの後ろで静岡のHさんエードが待ち構えて居たのでした、合流しホットする、走り出す時、Hさんに、この先もコース難しいので付いて行けとアドバイスを受けるが、石畳は滑るし何度も転びそうになり、怖いし、焦りで、舗装路に出る、山中城まで行けば三島に出ると聞いていたので、ひたすら下り坂走り三島市内に入るが、まだまだ先が長い、ここで諦めたら何のため今日頑張ったか判らない、気力振り絞り、雨が降ったり止んだりする中、寒さに震えながら、吉原宿に辿り付いた事が忘れられません。この辺りから、ある気持ちが抑えられなくなり、試して見たく、静岡であえて戦線離脱しシューズショップを探すが中々見つからず、有っても気に行ったもの見つからず、その日を棒にする、こうなったら家に帰り探す他ない、翌日の浜松までは、思いの外走れる、やはりシューズ変えて見たい、そんな欲望がメラメラ湧き上がるばかり、浜松～赤坂、ここは岡崎の手前です、県境で大歓迎を受け予定少し遅れたが、二川駅から電車に乗り、ショップに向かう3軒目で希望のシューズを手に入れ、憧れの大橋屋さんに意気揚々と向かう。翌朝その効果を思い知る事に成る、走れる走れる、効果絶大だ、矢作エードには予定より早く付き、ここで用意したタイツに変更し心機一転 今後に光明が差し込み再スタート地点と成った。又 どんなに早く走ってもコースミスすれば大きなロスと成りユックリでも確実に進む事の大切さ学び目から鱗が落ちる思いを何度も体験し、その後 佐多岬にたどり着く為、走りを抑え、金魚の糞に徹する、同盟者を誘い、かのコバンザメ走法なる走りで頑張る事に成る、お陰でコース図の読み方や、街道の景色等、満喫させて貰う事が出来ました。

特に三太郎峠越えでは、力を合わせ街道探し、草を掻き分け、踏みしめ、まさに探険隊、街道探し出した時の、嬉しそうな声を聞き、無事降りた時の喜びも味合わせて貰いました、又鹿児島港からの走りも圧巻でした、まだ暗い中、懐中電気を灯し、火山灰除けのマスクを付けた異様な3人が、疲れも物とせず、素晴らしい走りで、坂道もいとわず35km地点まで走った事です、いつもは早く歩きだすAさんが別人の走りを見せ、途中付いて行く事がとても大変でしたが、互いに走れる脚が有るこそ出来たひとコマとも言えるでしょう、そして最終日、しばらく歩いていると坂が見えてきた、自然に脚が動き、軽く感じた後下り坂と成り勢い余って止まらなくなる、こうなったら行くだけ行くのが昔の私でした、体が勝手に動き止まらない、目一杯の走りで、行くだけ行けと心に叫び、何だ坂、こんな坂と思う様な走りで、海中公園に11時、食堂でカレーを食べ、海沿いの道を通き、トライすべく海岸に向かうが、石畳と同じ険しさに方向転換し道路を上がり、トンネルくぐり、神社でお参りし記帳し最南端の岬に12時に立ちました、ここまでこれた事に感謝し海に向かい一礼する、又 多くの方の応援やサポートに支えられた事や、この応援に来てくれた多くの懐かしい人と再会出来た事 さらにはとても一人では出来ない事を計画し実行してくれた森塚リーダーを始めとするスタッフの方に感謝申し上げます、特に森塚さんには大きな声で叱咤激励して貰い、私の体に未だ残っていたランナーとしての力を呼び起こしてくれたのかも知れませんが、あんな力が隠されていた事に驚くばかりです。

ホテルの風呂で洗濯したことや、ビール片手にコンビニ弁当食べ、時折訪れる食堂での旺盛な食欲にただただ驚き、一年の6分の1もの長きに渡り、走り旅が出来た事は私の永きランニング人生最高の思い出に成りました、夢の機会を分け与えて貰い、参加された皆さんと夢が共有でき、うれしい限りです。

最後に日本縦断走り旅に、文句も言わず送り出してくれた家族の応援に感謝します

皆さんと出会えた事 忘れません

これからも楽しくランニング楽しんで下さい

有難う御座いました

12月吉日

若穂井 勉